

# 自ら他者に関わろうとする児童の育成 -主体性を高め、段階的に発展させる交流活動を通して-



特別研修員 特別支援教育 狩野 大貴(特別支援学校教諭)

<b>児童の実態</b>	<b>手立て 1</b>	<b>成果</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>慣れ親しんだ活動や人に対しては、自ら参加し関わろうとすることができる。</li> <li>見通しをもちにくい状況では、不安から泣いたり、その場を離れて安心感を得ようとしていたりすることがある。</li> </ul>	<p>「児童が主体的に取り組める活動を軸にした交流対象の段階的発展」 慣れ親しんだ活動を拠り所にし、学級内から他学年、隣接校へと、スモールステップで関わり対象を広げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流の対象を段階的に広げたことで、安心した様子で交流活動に取り組める児童が増え、相手校児童へ自分から声をかけるなどの自発的な行動が増えた。</li> <li>ツールの共有により、互いの動きを見合ったり、誘い合ったりする協働場面が生まれた。</li> </ul>
<b>教師の願い</b>	<b>手立て 2</b>	<b>課題</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分からやりたいことを相手に伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりする姿勢を育みたい。</li> <li>身近な社会に安心して関わられるための手段を獲得してほしい。</li> </ul>	<p>「児童の主体的な関わりを引き出すツールの活用」 感覚的に楽しめる活動が設定されたタブレット端末1台を各グループに配付し、それを介した児童同士の自然な関わりを促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を用いた模倣遊びを全員に設定したが、児童やグループごとに異なるツールを設定してもよい。</li> <li>児童の特性に応じたグループ編成や、客観的な評価方法の確立が求められる。</li> </ul>

## 生活単元学習 小学部2年「N小学校6年生との交流を楽しもう」

### 手立て1 児童が主体的に取り組める活動を軸にした交流対象の段階的発展

【クラス内】同じクラスの友達と何回も繰り返して、動きを合わせる活動に慣れてきた!

#### 手立て2 児童の主体的な関わりを引き出すツールの活用



【他学年・他学部】同じ学校の小学部1年生や中学部のお兄さん、お姉さんとも仲よく活動できた!



【地域の小学校6年生】隣の小学校のお兄さん、お姉さんとの活動も協力して楽しめた!



【社会】段階的に発展していく交流対象と、できることを活用して関わる経験を重ねることで、他者と関わる力を高め、自ら社会に関わろうとすることができる。